

第3回 研究会より

参加者 10人

最上教育会館が使用できませんでしたので、初のゆめりあ会議室です。少々お金がかかりましたが、やはり素晴らしい施設でした。人数がまとまったときは積極的に使いたい場所です。



1 笹原さんから授業作りについて

笹原さんから、平成8年に佐藤 学教授を招いたときの資料が配布されました。資料に目を通す前に、笹原さんの話がありました。

- ・ 今、最上で授業が変えやすい雰囲気ができてきた。
- ・ 戸沢村は共同の学びを推進しているので、バックアップをしている。
- ・ 指導主事や教育長の中にも、共同の学びについて関心をもっている人が増えている。
- ・ 2月5日のETV特集を8市町村の教育長に紹介した。
- ・ 授業作りを変えていこうとする動きが中学校でもはじまってきた。
- ・ 来年以降はだいぶ変わっているだろう。
- ・ 本研究会をはじめ、共同の学びの研究が多層化してきている

次に、資料の佐藤 学先生が公演した内容に目を通しました。その後、グループに分かれてディスカッションに入りました。

資料

平成8年に市民プラザに招いたときの講演をテープ起こししたもの

その頃はまだ共同の学びという言葉はつかわれていない。授業の見方はどうあればよいかという内容。

資料については、希望者には第4回の会場で渡します。

2 授業を記録するという事について

高橋から、授業を実際に記録するときどんな工夫をしているのか、話し合った。

授業を記録する方法については、大学の教育学部を卒業しても学んではない。人それぞれの自己流になっている。そこで、参加者全員の工夫の様子を紹介してもらい、高橋からは江間山大教授の記録方法などの紹介をした。

参考文献 学力が身につく授業の技 2 (編著 守屋 淳 ぎょうせい出版)

2 ビデオカンファレンス

保科さんの小学4年 国語『短歌』の授業を視聴した後、研究協議を行った。

保科さんの授業を起こして

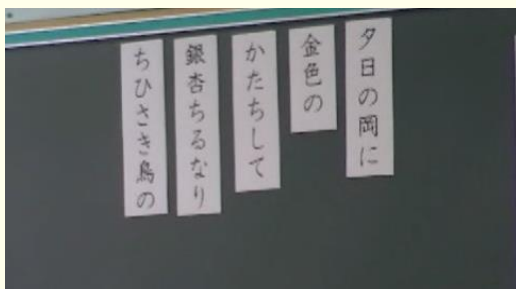
T: 4時間目は別の人の句を・・・与謝野晶子さんという人の・・・はい、与謝野晶子さんって聞いたことある人

4、5人挙手

挙手した児童に説明求める。

T: この人の短歌をなんだ、同じようにしながら並び替えをしてもらいます。

黒板にカードを貼っていく



T: カードが入っている封筒を配布する。

児童一人につき、茶封筒1つを配布している。この活動は個人ごと行うという授業者のメッセージにも受け取れる。

T: では、5つの句に分けられているやつが入っている。最初に質問ありますか？

T: はい、S2くん

S2: 「ぎんが」ていうとこ・・・

T: この字？

S2: うなずく

周りの児童: ぎんなん、ぎんなん

T: ぎんなんって何？

周辺児: あの豆みたいなやつ

T: 何落ちた時？

周辺児: 銀杏、銀杏

周辺児: え？銀杏って呼ぶの？

カメラ近くの女子児童から漏れ出したことば、きっと、自分はぎんなんと呼ぶと思っていたのが、この会話のやりとりで、新しい言葉を獲得したことを表す。驚嘆のつぶやきだった。

T: なんか質問？

S3: 夕日の・・・

T: あ、これ

マジックを取り出し、岡の漢字の脇にルビを振っていく

ビデオでははっきり聞き取れなかったが、この女子児童は「おか」と呼んでいるように聞こえる。すれば、この女子児童の質問の意図は何なのか？考えられるのは「岡」と「丘」の違いなのではないだろうか？

T: 他に質問ありますか？

S4: あの、「きんいろの」って、それ「きんいろの」じゃないんじゃ・・・

T: じゃあ、なんて言うの？

S4: 「こんじきの」・・・小さな声で

T: すごいな

T: さっき聞いたけど、S3さんも言っていたね。「こんじき」なんでそんな言葉しているの？

「こんじき」って・・・回答がS4とS3でダブルが聞き取れなかった

T: すごいね。君たちそんなことば知っているとは思わなかった。

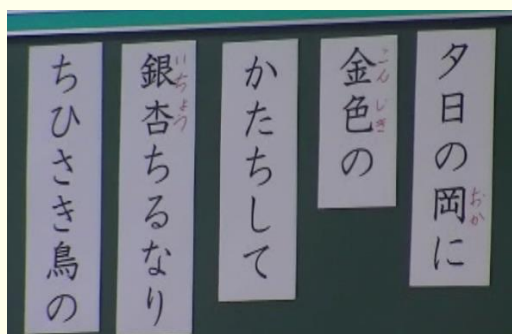
S3: え、漢字すきだもん・・・

T: (笑) すごいな、今度2点プラス

ここでまた S3 が登場し、「金色」をこんじきと呼ぶということを教えてくれる。この児童は、漢字に興味が高いようだ。だとすると、やはり、さっきのは「おか」と呼ばないのではなく、「岡」の漢字が使われていることに意識がいったのかもしれない。

T: はい、これそうです。「きんいろ」と読ませないで、「こんじき」と読ませます。

さきほどと同様に、ルビを振る



T: はい質問?

S5: 「ちひさき鳥」って何ですか?

T: なんだ「ちいさき鳥」って?

敢えて答えず、周囲に問い直している

ざわつく

T: (笑) この中に今では使わない読み方があるんだけど

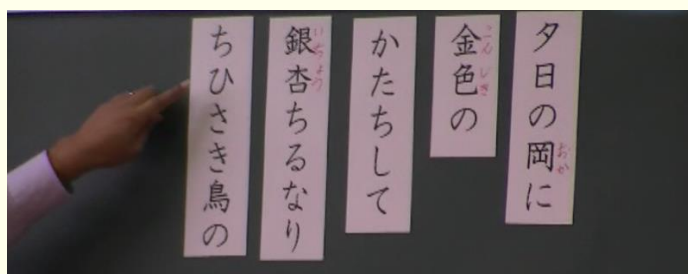
周辺児: 「ちひ」「ちひさき」・・・

『ちいさき鳥』のカードを指で示しながら

T: ここで言うと

周辺児: 「ちいさき・・・」声ははっきりしていない

T: どこ?



T: 「ひ」が

周辺児: 「い」

T: うん、去年も百人一首みたとき読み方わかんねやっというのあったけじゃん。「ち・い・さ・く」という意味ね

随所に見られるのは、不明瞭なことばにまだなっているときは、答えを教えなくて、もう一度児童に返しているという授業者の姿勢である。笑いなどをいれながら、勇気づけをしながら、自信ある発言に変えようとしているように感じる。

T：質問？

．．．．

T：じゃあ、並べてもらっていいですか？

児童：はい

T：並べてください

児童：机の上にカードを置いて、並べる活動にはいる。

個人ごとの活動ではあるが、見てみると多くの児童は、隣近所と相談しての活動になっている。白紙の紙にカードを糊付けることになっているせいか、すぐに糊付けをしている児童も見られる。授業者も途中、「隣の人とお話しながらしなさい」と指示を出している。

早く完成している児童は、銀杏散るなりを最後の行においている。それに自信があるのか、会話がないう児童もいる。

T：隣の人とちがうよっていう人手を挙げて。

2. 3人挙手

T：話した？ 同じだったら話し進まねと思うんだけど、違っていればなんでてなるよ。活動が少し勢いがついた。

T：隣同士で違ってたっていう人？

6人ほど規律

S6：僕は、こんじきの ちいさき鳥の かたちして 夕日の岡に 銀杏ちるなり

T：はい、S4は？

S4：こんじきの 夕日の岡に かたちして ちいさき鳥の 銀杏散るなり

S4が着席するとき、先生と手を挙げたが、授業者が気付かなかった。一体何を聞いたかったのだろう

T：いわれつつって以外の人。S7さん

S7：こんじきの 銀杏散るなり かたちして ちいさき鳥の 夕日の岡に

T：3通りほどでたんですけど、さ、お話してください。S8 お話して

S8：あのなんか、S7 ちゃんがいったやつで、銀杏散るなりってなんか最後でおわりということなのに、なんか・・・

周辺児：言っていることわかる。なんとなくいっていることわかる

S9：こんじきの銀杏散るなり形してってそこで・・・終わっちゃっているから、ちいさき鳥の夕日の岡にじゃなくて・・・

T：S7はどこに注目したの？最後にきそうだってどれが最後に来そうなのお？

S7：銀杏散るなりっていう、なんか、そういう風な流れとして・・・

T：流れとして、銀杏散るなりって最後にきそうだ

S10：わたしも、わたしは一番上のやつで

T：あ、ごめん、銀杏散るなりが最後のやつかっていうことだけど

S10：うん、それで、夕日の岡にじゃなくて、銀杏散るなりが最後にくる・・・流れとして

T：(笑) 流れとして

S11：自分の考えで、最後の夕日の岡についていうのはまだ、続きそうな感じで、上と真ん中は、銀杏散るなりで・・・続かないっていう感じだから違うのかな・・・

T：S11さんはなんて？

周辺児：続きそうだから・・・

T：これでなんかおわるような感じはしないってこと。

夕日の岡のカードを手にとって

T：じゃあ今、これは最後にきそうだ、これは最後にこないようなきがするってでたけど、あとない？

S12：やっぱりあの一番下の小さき鳥の実際には違うとは思うんだけど、ちいさき鳥の夕焼けの岡にではなく、おかしんだけど、鳥の岡っていうのではないとおもんだけど

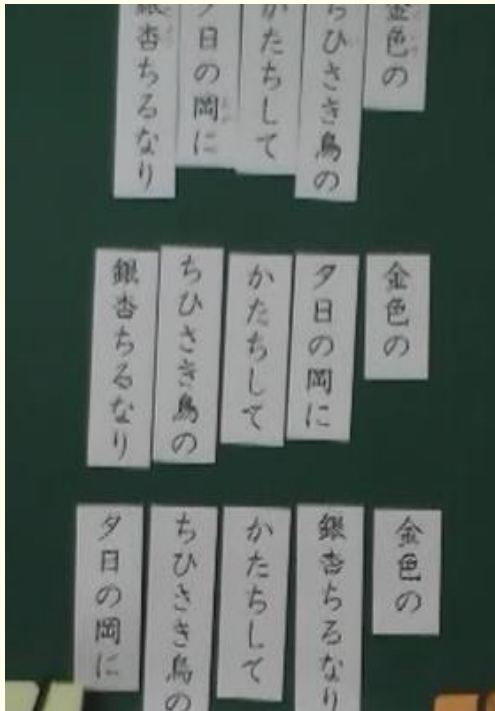
一部児：ああ～

T：このつなりのことかな

S13：わたし考えたら、わたし2番目だったんですけど、よく考えたら形してのそこから、最後までのとこからごっちゃになってきて、けいたくんにきいたら、そうだなと思って

T：どこのつながり

S13：かちたちして、ちいさき鳥のの意味がわかんなくなっただけど、その前の小さき鳥のとこから、ああそうだなと、意味がつながっている



T: けいたくんとお話してああそうだなと思ったの、すごいじゃん。S11 さん何か言いたいことある？

S11: 自分は1番上。自分のイメージでは、小さき鳥の形した銀杏の葉が落ちているイメージでした

S9: 銀杏は秋になって黄色くなって、それに夕日があたって金色になって、ちいさき鳥みたいにみえて・・・

S14: 僕は一番上のやつで考えていて。イメージは銀杏の葉が夕日に照らされて金色になってそれが小さき鳥みたいに形にみえて、そのままなんか夕日に照らされている岡に落ちているで、一番下のはおかしいと思って。金色の銀杏散るなりはなんとなくわかるんですけど、そのあとにかたちしてってでてきて、何の形してるんだみたいな。

T: なんの形してるの？S15 さん何の形しているの？

S15: ちいさい鳥

T: 鳥がいるんだよね？

児童: いや、いるっていうわけではない。

S16: 小さき鳥の形に見える夕日の岡で、鳥の形のように見える銀杏が落ちている表しているんだと思います。

S17: 僕は、与謝野晶子さんという人は旅をしていて、夜になるときに夕日の岡みたいなどころにいて、小さい鳥の形をした銀杏のはっぱが夕日の岡にちったんじゃないかな

T: 実物の銀杏の葉をまく

T: こういうこと？

T: じゃあ、与謝野晶子さんの歌はどういうのか聞いてみますね

CD を再生

児童: え～。なるほど～。そういうことか。

S17: 最後のところが逆になっていたのは、あの、夕日の岡にちるなりになったのは、銀杏がさっきあの、銀杏が夕日の岡についていったのは、夕日の岡に銀杏が散る・・・

S18: わたしは、夕日の岡に銀杏散るなりで反対だったんですけど、銀杏のはっぱが夕日の岡に散っているというのが私のイメージと同じだった

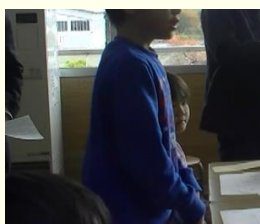
T: 逆した人いなかったよね。意味は？

児童: 意味は同じ

S10: 銀杏が散ったのは夕日のと、夕日の岡の方に銀杏が、ん？ん？

“なるほど”とCDの正解を聞いてわかった気がしていたが、あらためて問い直されるとうまく説明できない児童が多い。

S12: ぼくはなんていうんだろう、夕焼けの岡についていうのは、なんていうんだろう、あの—まだ続く、あのなんか言いづらいんですけど、とりあえずなんか、まだ続く、あのさっきいっていたのは、銀杏が落ちて、落ちて、落ちたみたいなの（笑）落ちたみたいなの・・・



はじめ、ことばがつかかっているのだろうかと思ったが、この子は、銀杏の葉が連続的に落ちていることを表現していることがわかった。これまで、倒置されたのはなぜかという問いに答えを窮する3人がいたが、この子は、新しい展開を提供している。

T: ふつうはどっち？

周辺児: ちるなりの方を指摘しあう

T: 夕日の岡にカードを最後の行に合わせながら「こういう風になりそうになっか？」、

一部児童: なんだっけ、前に習った

T: 前に習ったね

一部児童: 倒置法

周辺児: 倒置法だ

T: S14

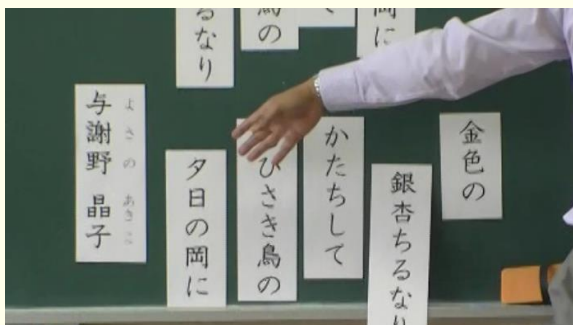
S14: 倒置法

周辺児: 倒置法だ

T: 反対にする。やり方な。・・・そんな話したね、1学期ね

周辺児童：あ～

T：夕日の岡にのカードを前の行において、「これでも OK なんだよね。それでも与謝野晶子さんは、わざとこうやったの。考えれば S7 さんは、夕日の岡を最後にしたんだけど、これを最後に持ってくるのも OK だね。



T：いろいろ調べたら、銀杏ちるなり 岡の夕日に と最初考えたらしい。こっちもなんかあるんだって。でもこれが一般的になってるんだけど、これが逆になっているのもみつかっているんだって。岡の夕日に

一部児童：岡の夕日に（つぶやく）岡にある夕日に・・・

T：だからこれを作るときにいろいろ思いを巡らせていたんじゃないかね。もしかしたら、夕日の岡にを前にもってきたのかもしれないけれど、でも最終的にはこうなったということ。イメージ、OK

では、読んでみましょう。自分のリズムで

児童：ひとりひとり声を出してよみあう。

T：もうひとつよ、今日は準備しているのよ

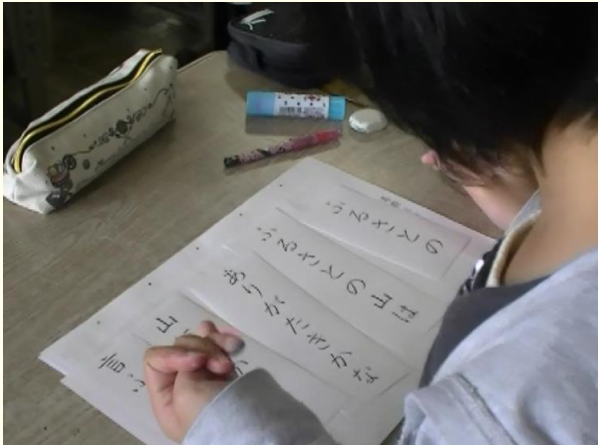
T：石川啄木という人の短歌をおなじように考えてみようと思う。

新たに封筒を配布

何も言わなくとも、さっきの用量で児童がカードを並べていく。

そのまま活動に自然にはいっていく。

え？と言って、指で数を数えていく児童が出てくる。8音になっているカードがあることが発見されていく



写真の児童は、文字の数を数えて、数字をカードの上を書いていっている
 周辺児：読み方がわからない・・・

ジャンプの課題だろうか。確かに、児童に混乱が起きている。短歌は5・7・5・7.7が崩れているカードとの出会い。

T：S8くん何？

S8：紙に5・7・5・7・7なのに、紙に5・7・7・7・7

T：5・7・7・7・7。5の他はぜんぶ7になっている。

周辺児：8にもなっているよ。周辺の児童が思い思いに、発見したことを言い始める。

T：しばらくそのままにしておく

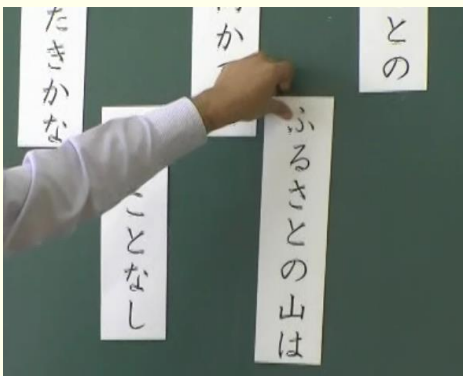
敢えて、この問題をすぐにとりあげずに、しばらく、児童の様子を見守っている。たぶん、この問題点を全員に共有させたかったのだろう。

T：ふるさとの山は・・・8音だね

S9が挙手したので発言させる

S9：この2つのカードは、6と8（音）になっている。

T：黒板のカードを動かし始める。言うことなし ふるさとの山は



S18：確か一文字多くてもいい・・・聞きとれず

T: 一文字多い

じゃあ他のやつはどうなの・・・ふるさとの山は・・・

他のカードの文字数を確認していった。

T: 5と7と7でこっちは6と8で、どう扱えばいいの？

周辺児: ふるさとの山はを7で

T: ふるさとの山は7で数えるのね。言うことなしはどう？これは、言うではなくて

周辺児: ゆう

T: ゆう（言う）ことなしか。5として、5音として考えてねということでもいいですか？

児童: はい

T: じゃあ並べ替えてください。

時間が経つにつれ、意外に正解している児童が目立つ

T: まだ並び替えできなくて悩んでいるっていう人？

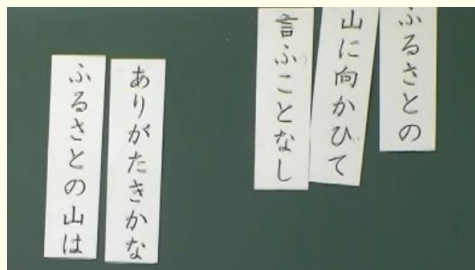
4. 5人挙手

T: S15さん紹介して。もしかしたら、迷っていることおなじかもしれないし。

S15: 私は・・・ありがたきかな ふるさとの山は か、ふるさとの山は ありがたきかな
のどっちかな・・・

T: なるほどな。ここのパターンで迷っているんだな。それと違うことで迷っている人いる？

それとはまったく違うパターンで並べたよっていう人？



T: じゃあ考えたイメージとか発表して下さい。

挙手 5.6名

T: S19さん

S19: 私は S15さんと同じなんですけど。ふるさとの山に、ふるさとの山に向かって、ん、言うことはなくて、ありがたいふるさとの山っていうことじゃないかなと思います。

T: S10 困っていたね。

S10: んと、今のふるさとの山に向かって言うことなしなんですけど、なにが言うことないのか

この発言はよく出てきたなあという感想。この発言によって、この課題の難易度がジャンプした感じ。こんな素直な疑問を普通に声に出せる学級づくりがすばらしい。

T: (笑) ね。何がいうことないのかね

周辺児: 答えられるとって、数名一斉に挙手があがる

T: それに答えてくれるひといる? ということなして何が?

周辺児: すごく、すごく、Sはジェスチャーを交えて



T: S11 さん

S11: すごくなにか、・・・口出しもできなくてすばらしい。

T: いいよ言っていていいよ。Sの隣のS16に

S8: 息をのむ

T: 息をのむ

一部児童: 息を殺す

T: 息を殺す。今、息をのむ。言うことなしは息をのむ。これでイメージわく。S

20 さんどう

S20: 聞きとれず

T: なんで素晴らしいの?

一部児童: 山がきれいだから

T: 山がきれいだから。山はすばらしい。この間野口健さんも言ったよね。山はすばらしい。

一部児童: 自慢できる

T: 自慢できる

S9 が挙手

S9: 石川啄木っていう人のふるさとの山は言うことのないほどの素晴らしいって・・・

T: わかった?

4.5 人以前挙手

T: 息をのむ

S10: ふるさとの山はごみも落ちてなくてきれいだなあ。ふるさとの山にむかって、すごいきれいだなあ、きたないとか、変だなとか、そういうの言わなくともきれい

T: S11 さん

S11: あのたぶん、石川啄木さんは、ふるさとの山にきていて、石川啄木さんの山は自分には尊敬できるみたいなきれいな山、迷ってあなんですけどそういうとではないかな・・・

T: どんな山に対しても言うことなしではないんだ。はいS12 くん

S12: 僕の予想なんだけど、自分の地元、地元っていうかそのきれいな山、久しぶりにみるとなにも言えないくらいきれいだったり、紅葉がきれいだとかそういう感じで、・・・奈人も言えないくらいきれいだったとか、あのなんだろう、しゃべれないとか、なんにもいえないなんともならないと・・・

S15 さん: わたしは、きれいっていうのもあるんだけど、もうひとつ、もう二つ?、山で採

れるもの多くて、ごはんとか・・・ありがとうっていう・・・

・たぶん石川啄木さんはちっちゃいときに、山で遊んでいたから、帰ってきてありがとうと
いったのだと思います。

S10：ちょっとおもったんだけど、Sくんが言っていた地元じゃなくて、石川啄木さんは、
旅していて、・・・ここは・・・

一部児：でも、それは違うと思う

S16：・・・意味だから・・・(聞きとれず)

T：写真を見せます

黒板に写真を数枚はっていく

T：全部同じ山で、岩手山という山です



T：久しぶりとか、小さいときとか言ってたね、石川啄木さんは、岩手県にいて、途中で北
海道に行ったの。そのあと東京に行くことになるんだけど、岩手を通らないで船で東京に
行ってしまふ。だから確かに、そういう風なことは・・・

(カードの話に戻って) 順番どっちなんですか？聞いてみましょう

GDで正解を聞く

T：よく君達考えてくれたね。じゃあ読んでみよう

児童：短歌を詠む

T：最後質問して終わりにします

今日3つの短歌を紹介しましたが、みんなに詠んでう聞かせたいなとおもうときどれを選
びますか

挙手をとって、いく

じゃあ終わらしましょう。

研究協議から

授業者への質問から

- ・ 銀杏の葉っぱと山の写真の具体物はどちらが効果的と感じているか？
- ・ ある児童が発した「いうことなし？」で授業が深まったが、それは予想していたか？
- ・ この授業で上位の子の学びと下位の子の学びでは違いはあるか？
- ・ 「倒置法」といったら納得したのはなぜ？

協議の話題から

- ・ 言葉がつかかり出てくる男子児童について、もういちどビデオで確認。「落ちて、落ちた、落ちて」はつかかかっての言葉ではなく、その並びのほうで葉っぱが連続的に落ちていくイメージになるというこの子なりの表現であった。
- ・ 発言の最後があいまいに終わる子が多いが、周囲の子がそれを解釈できている。だから発言しながらライブで考える不安定な状況でもものおじしないクラスになっている。
- ・ 「なるほど！」という児童がいたが、聞いてみると、言葉で表現できない。ここにこそ、大切な学びが発生している。
- ・ 授業者のこの教材に対する“しかけ”が上手に仕組みられている。

授業提供していただいた保科さん、ありがとうございました。大変面白い授業でしたので、会員の方でごらんになりたい方は、直接保科さんに問い合わせしてください。



[戻る](#)